

● 2月28日 発明工夫コンテスト三連覇が新聞掲載されました。

下野新聞 平成30年2月28日(水曜日)

帝京大理工学部
蓮田教授研究室

視覚障害者向けに考案

ドアノブ触り鍵開閉

発明・工夫コンテストで最高賞を受賞した帝京大理工学部のメンバー

【宇都宮】帝京大理工学部情報電子工学科の蓮田裕一教授の研究室が、日本産業技術教育学会の「発明・工夫作品コンテスト」発明工夫部門で、最高賞に当たる学会長賞を3年連続で受賞した。受賞作は視覚障害者向けに考案した、ドアノブを触るだけで鍵が開閉できるシステム。目的や利用方法などが明確で優れた作品だったことなどが評価された。

発明コン最高賞 3年連続

主催者によると、本年度のコンテストの締め切りは昨年12月下旬で、全国の大学から5部門計39作品の応募があったという。このうち、発明工夫部門には7作品が集まり、審査結果は1月31日に発表された。

受賞メンバーは同学科4年田山智祥さん(22)と安波舞さん(22)、3年荒井裕貴さん(20)と床井俊彦さん(21)の4人。

作品名は「鍵が無いのがキーポイント」で、鍵を探したり、鍵穴に差し込んだりするるのが難しい視覚障害者がある利用者を想定。ドアノブを触ると、腕に装着した機器から特定の周波数の微弱な電流が伝わり、鍵穴

にキーを差し込む動作をしなくても鍵の開閉ができるシステムを提案した。

住人以外がドアを開けようとする、ブザー音がなるなどの工夫もした。今回の技術を応用すれば、自転車や買い物カートでもハンドルを握った際に持ち主を特定できることから、盗難防止などへの活用も考えられるという。

田山さんは「大学で学んだ知識を形にすることができた。先輩が続けて賞を取っていたので受賞はうれしい」と喜びを語った。

研究室は、2015年度から応募を始め、学会長賞の受賞は3年連続。蓮田教授は「第三者からの評価は学生を育てるとともに、彼らのモチベーションを高めることにもつながる」と話した。

● 3月6-7日 荒牧、最後の田川水生動物調査を行いました。



虫の嫌いな荒井君も…



就職決まってよかったね